

金沢市大場遺跡 現地説明会資料

令和5年6月24日（土）
（公財）石川県埋蔵文化財センター

ホームページ
石川県埋蔵文化財センターを [検索](#)

調査地 金沢市大場町東地内
調査原因 いしかわ特別支援学校高等部新校舎整備事業
委託者 石川県教育委員会事務局庶務課
調査主体 石川県教育委員会（調査担当：公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター）
調査期間 令和5年5月9日～同年11月（予定）
調査面積 4,480㎡（予定）
調査概要

本遺跡は、森下川下流の沖積平野に位置しています。この地は過去に森下川の氾濫を幾度も受けてきました。調査では、氾濫・湿地堆積層を挟んで上面（第1面）に平安～鎌倉時代（11～13世紀）と室町時代（15～16世紀）、下面（第2面）に古墳時代（6世紀）と奈良～平安時代（8～9世紀）の生活面を確認しました。現在、昨年度に引き続き2年目の調査を行っており、昨年度の調査を含む調査成果について紹介します。

【調査成果】

第1面では、昨年度の調査で15～16世紀の屋敷地の区画溝から、生活の様子を思わせる多彩な遺物が出土しました。また11～12世紀の川に沿って掘立柱建物（建物1・2）が確認され、今年度の調査で建物の規模と、川の合流部の微高地上に建っていることが新たに判明しました。別の掘立柱建物（建物3）からは八角形に加工された柱根が出土しています。

第2面では、古墳時代や奈良・平安時代の溝、土坑、小穴を検出し、土師器の小型壺や須恵器の坏・甕などが出土しました。7月以降始まる今年度の第2面調査でも新たな発見が期待されます。

氾濫の影響は第1面の時期には小規模になり、次第に地盤が安定し始めたことがうかがえます。11世紀後半以降には、水運の利便性を活かして積極的に開発が行われた様子が明らかになりました。



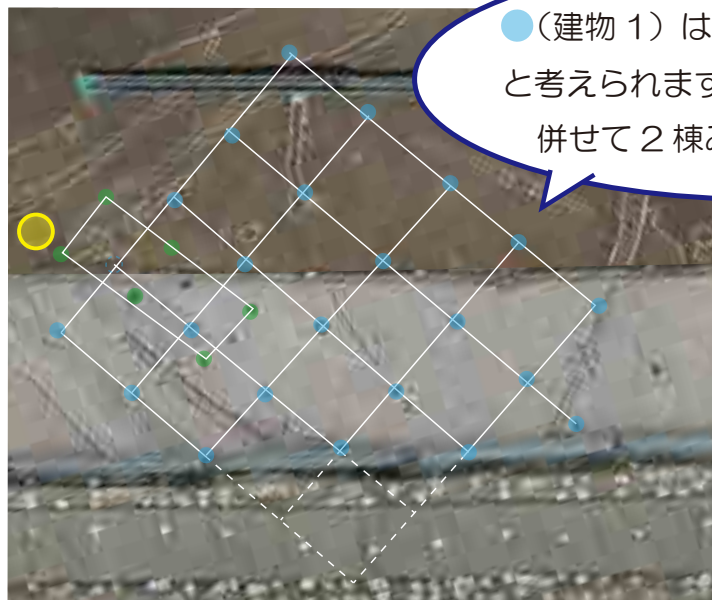
大場遺跡遠景（昨年度の調査区・北から）



大場遺跡周辺の遺跡分布図（国土地理院地図発行2万5千分の1地形図より作成、縮尺不同）

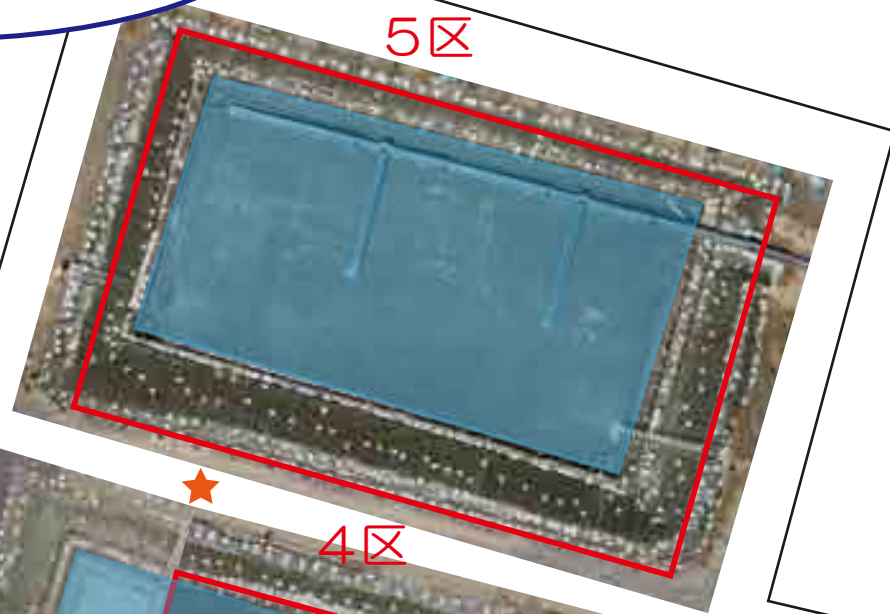
西暦	時代	日本の動き	石川県の動き	石川県内の代表遺跡
10000頃	旧石器	石器の出現	丘陵上で石器を使った生活が始まる	
	縄文	貝塚の形成	定住的生活のはじまり 大型竪穴住居が出現する	
300頃		農耕文化が伝わる	方形竪穴住居・高性集落の出現	一針遺跡
B.C A.D	弥生	金属器の使用	低地で平地式住居が作られる	八日市地方遺跡
250頃		群馬台地の成立	前方後円墳が作られる	月影遺跡 観法寺墳墓群①
	古墳	大型古墳が作られる	横穴式石室が作られる	千代・能美遺跡 河田山古墳群 観法寺古墳群②
710	奈良	平城京へ遷都	能登国の設置(718) 大伴家持の能登巡行(748)	大友西遺跡
794		平安京へ遷都	加賀国の設置(823) 加賀郡・国分寺が設置される	大場遺跡③
	平安		加賀郡物部村がたてられる(849) 山居集落が盛んとなる 中世茶業への陶器生産始まる	観法寺ヤツタ遺跡④
1192	鎌倉	鎌倉幕府の成立	白山・石動山などの山岳信仰盛んとなる	梅田B遺跡⑤
1338		室町幕府の成立	山城が築かれる	漆町遺跡
1573	安土桃山	安土幕府の成立	加賀一向一揆がおこる	南森本遺跡⑥ 堅田B遺跡⑦
1603	江戸	江戸幕府の成立	前田利家の金沢入城 山中町九谷で陶器を焼き始める	
1868	明治維新	明治維新	石川県の誕生(1872)	八幡窯跡
	第二次世界大戦	第二次世界大戦		

石川県の主要遺跡および大場遺跡周辺の遺跡年表

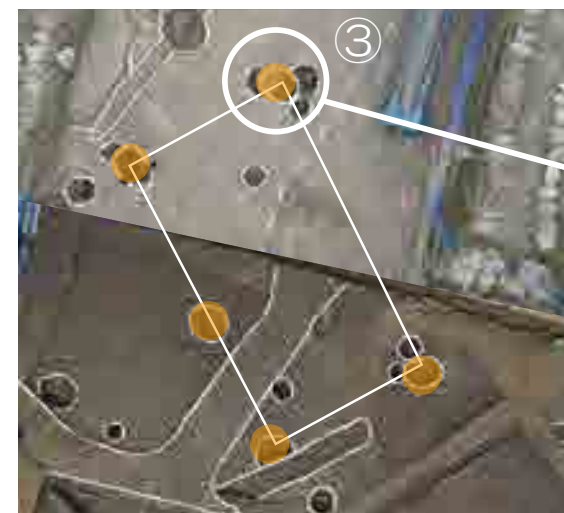


●(建物1)は4×4間の総柱建物と考えられます。ここでは●(建物2)と併せて2棟みつけられました。

①掘立柱建物(建物1・2)



5区



4区

②掘立柱建物(建物3)

建物の柱が残っています



③建物3から出土した柱根



⑤15~16世紀の井戸



⑥井戸底板が出土した様子



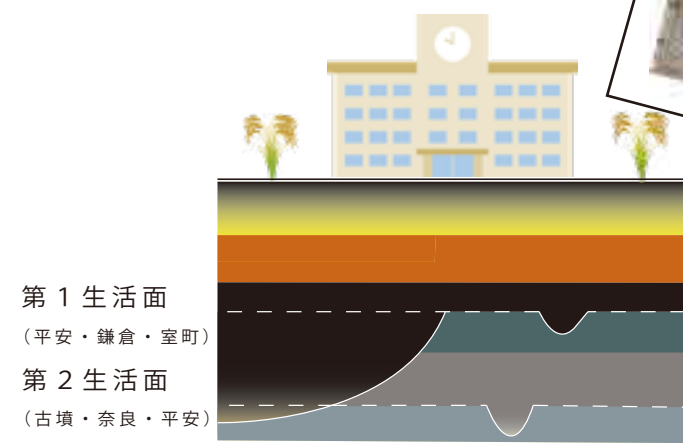
④屋敷地の区画溝

2本の溝が直角にはっています



④区画溝の出土品

生活の様子がみられます



大場遺跡の基本層位

学校建設時の盛土
 第1面遺物包含層
 第1面基盤層
 第2面遺物包含層
 第2面基盤層

R4・5
 調査区(第1面)
 [平安~室町時代]



遺跡発掘の流れ

①表土除去作業

遺跡は水田や畑の下など、地面の下に埋もれているため、パワーショベルを使って表土を取り除きます。



②遺構検出作業

地面を少しずつ削る作業です。遺構（建物や溝の跡など）の土は周囲の土と土質や色が異なるので、遺構の輪郭が現れます。



③遺構掘削作業

遺構に入り込んだ土を掘っていきます。このときに遺物（土器など）が見えたら、壊さないように竹べらなどを使って丁寧に周りの土を取り除きます。



⑤実測作業

掘った土を取り除いて遺構が掘り上がったら、写真や図面でその状況を記録します。



④遺物出土状況

遺構から土器が出土した様子です。



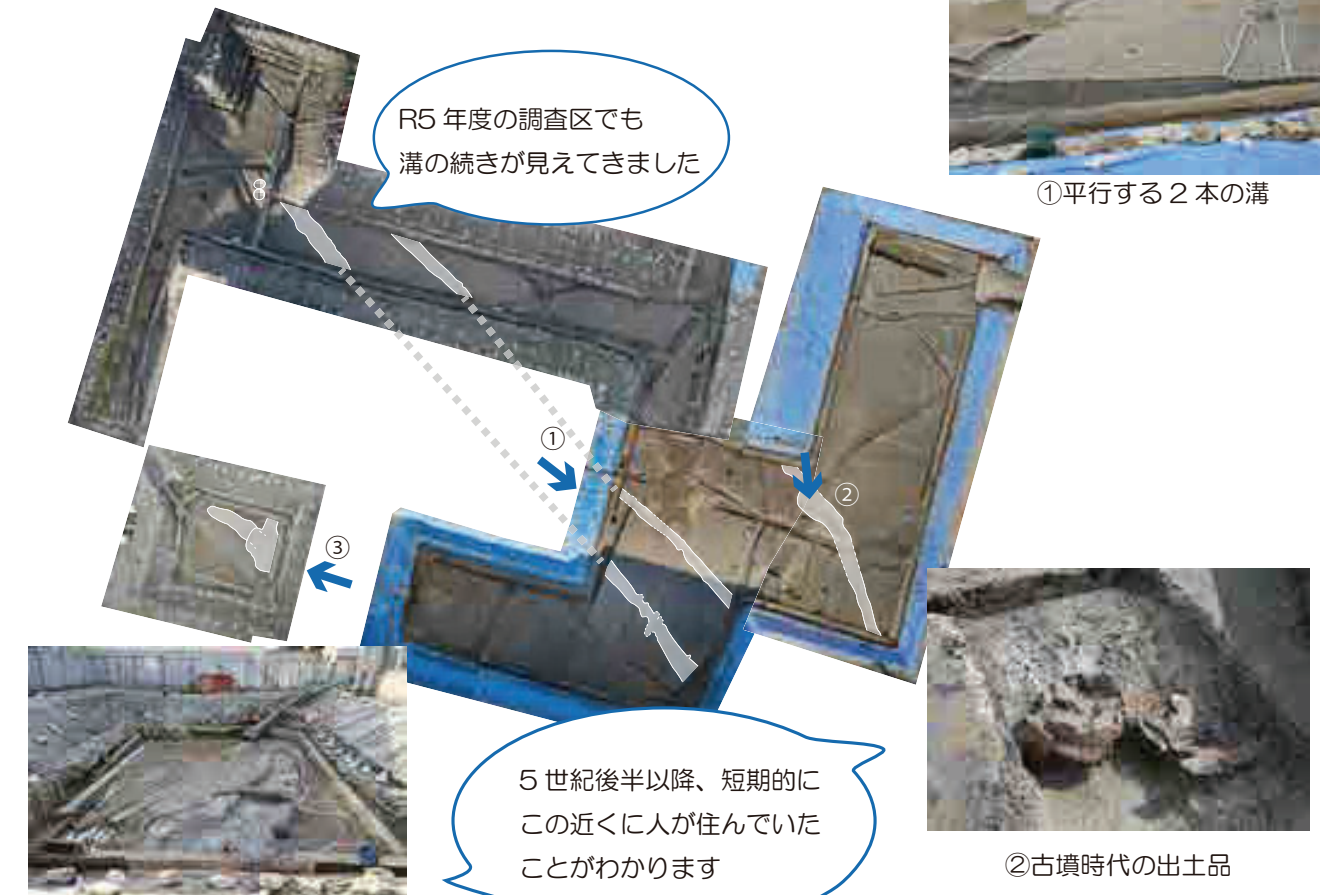
⑥遺構完掘状況

遺構を掘りきり、測量などを行い記録をとったら調査終了です。



R4 調査区（第2面）

〔古墳～奈良・平安時代〕



①平行する2本の溝



②古墳時代の出土品

③古墳時代の土器がまとめて出土した遺構

用語解説（田中琢・佐原真 2003『日本考古学事典』三省堂より）

・遺構（いこう）

建物や溝など、土地に刻まれた過去の人間活動の痕跡。

・掘立柱建物（ほったてばしらたてももの）

平地に穴を掘り、その中に柱を立て、柱の根本を地中に固定したものを掘立柱といい、掘立柱を用いた屋根を地上まで葺かない建物を掘立柱建物という。

・土師器（はじき）

古墳時代～平安時代の軟質素焼きの土器。

・須恵器（すえき）

古墳時代～平安時代の硬質窯焼きの土器。

・瓦質土器（がしつどき）

中世～近世の瓦のような土器。表面に炭素を吸着させることにより表面の色が黒に近くなる。

・坏（つき）

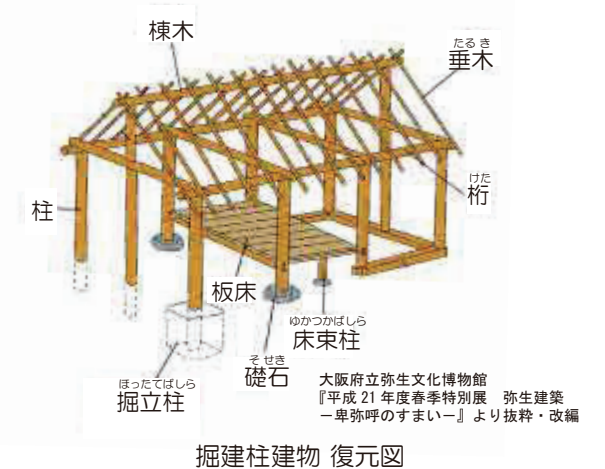
古代の最も一般的な食器。

・甕（かめ）

液体などを貯蔵するための容器。

・紡錘車（ぼうすいしゃ）

糸を紡ぐときに使う道具。材質は土・石・鉄があるが、本遺跡で出土したものは滑石製。



掘立柱建物 復元図



土師器

須恵器